



# 瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部  
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

復活の主日 A年 (2023年4月9日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：使徒言行録 10章 34a、37—43節

第二朗読：コロサイの信徒への手紙 3章 1—4節

福音朗読：ヨハネによる福音書 10章 1—9節

## 見て、信じたこと

なぜ、ペトロと、イエスが愛しておられたもう一人の弟子が墓まで駆けっこしたのかは不明です。しかし、もし、「もう一人の弟子」を弟子の理想像と考えると少し腑に落ちるかもしれません。「もう一人の弟子」は先に墓に到着しますが、墓には入らず(5節参照)、ペトロを先に墓に入れます(6節)。そしてペトロは墓の有り様を見ます。しかし、「もう一人の弟子」は、後から墓に入って、「見て、信じ」(8節)ます。ペトロは、イエスを裏切って「違う」と否定した人です(18章 17、25-27節)。イエスさまについて行くという弟子のあり方から一時的に離れた人です。そんなペトロと弟子の理想像の「もう一人の弟子」とを比べて、イエスさまの復活を信じることについて読者に問いかけているのかもしれません。

今日の福音朗読では、「見る」がいくつか登場します。原文はそれぞれ違うことばです。「墓から石が取りのけてあるのを見た」(1節：ブレポー)、「亜麻布が置いてあるのを見た」(6節：セオーレオー)、「見て、信じた」(8節：エイドン)。1節は一般的な「見る」の意味ですが、6節は「じっくり時間をかけて見た」の意味になります。つまり、先に墓に入ったペトロは墓の中の隅々まで見たわけです。しかし、8節の「見る」は何を見たのか目的語がありません。「もう一人の弟子」は何を見たのでしょうか。動詞が使い分けてあるのはここだけではないようです。

しばらくすると、あなたがたはもうわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見るようになる。(16章 16節 新共同訳)

最初の「見る」はセオーレオー、二番目の「見る」はエイドンの未来形が使われています。エ

イドンには「洞察する」という意味あいが強いかもかもしれません。肉の目で現象を見るのではなく、現象の背後にあるものを見通すという意味でしょう。弟子の理想像である「もう一人の弟子」は、空の墓の向こう側に何か大切な神の働きを見いだして、信じたのです。しかし、9節とのつながりの悪さがあります。9節はどのような意味なのでしょう？ 疑問が残ります。



『キリスト復活の日の朝、駆け付ける使徒たち』

ウジェーヌ・ビュルナン (ムードン 1850 - パリ 1921)

ジャン・クーラン・オ・セブルクル・ル・マタン・ド・ラ・レザレクション 1898  
パネルに油彩、83 x 135.5